

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：14403

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21710268

研究課題名（和文） 子どもの性暴力被害の影響と加害少年への教育的取り組み

研究課題名（英文） The impact of children's sexual assaults and psycho-educational treatment for children who have sexual behavioral problems

研究代表者

野坂 祐子（NOSAKA SACHIKO）

大阪教育大学・学校危機メンタルサポートセンター・准教授

研究者番号：20379324

研究成果の概要（和文）：

性暴力被害を受けた子どもへの支援と、性加害など性的な問題行動を有する子どもへの教育的取り組みを行うため、児童相談所や支援学校等と連携をしながら実践研究を行った。

被害を受けた子ども向けの教材として、『はなしてくれてありがとう』と題する心理教育用リーフレットを開発し、子どもの保護者や教職員向けの心理教育教材として『子どもを支えるためにできること』を開発した。

また、性的な問題行動を有する子どもへの教育的支援として、研究協力校である支援学校をモデル校とし、性問題行動をもつ生徒への個別プログラムの実施および学校全体での性教育の体制づくりを行った。月 1 回程度の研究会議でケース検討を重ねたほか、年に 2 回程度の教職員研修を行い、教職員が性加害と性被害へ対応する際のスキル構築を旨とした。年度ごとに取り組みを報告書にまとめ、「知的障がいのある生徒のための性教育研究『問題となる性行動を有する生徒への支援に関する取り組み』報告書Ⅰ～Ⅲ」の 3 巻を発刊した。

実践に役立てるために、米国 CARES institute 等において TF-CBT（トラウマ焦点化認知行動療法）に関する研修の受講および資料収集を行い、またカナダで開催された第 30 回治療教育学会へ参加するなど、国内外の研究者との情報交換等を行った。

研究成果の概要（英文）：

In order to support to the children who suffered sexual assault, and to work out the psycho-education for the children who have sexual behavioral problems, this practical research was done cooperating with some child protection centers and a special support school, etc. The material for the children who suffered sexual assault and another material for children's parents and teachers were developed. Moreover, the special support school which is a research partnership school was made into the model program as educational support to the children who have sexual behavioral problems, and system for sexual education in whole school. The case conference was done in about 1 time per month, and also about two school teachers training were performed per year. These practices were summarized in the report every year.

In order to use for practice, such as taking some training about TF-CBT (trauma focused cognitive behavior therapy) in U.S. CARES institute and participating in the 30th association of treatment sexual assault in Canada, etc. were performed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 22 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 23 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：性暴力・被害者支援・治療教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

性虐待や性暴力・犯罪の問題は、近年、児童虐待の防止等に関する法律の改正や犯罪被害者等基本法の制定などの社会的な動きを背景に、被害児童の保護件数の増加し、メディア報道への一般社会の関心が高まり、さらに被害者自身による申し立てや手記等の発信などによって、その実態と深刻さが顕在化してきた。また、学校内や登下校中の子どもの被害は、学校危機 (school crisis) として認識されるようになり、予防と介入などの危機対応が求められている。

こうした社会的背景から、性暴力に対する取り組みは社会的ニーズが高いものといえるが、学術的にみると、子どもの性被害の実態については大規模な調査が少なく、ケアを提供する社会的リソースも少ないという現状がある。また、学校内や児童福祉施設等における子ども同士の被害－加害とその連鎖に関する問題は、重大かつ対応の困難な事例として報告されている。

性的な外傷体験は、子どもの発達に長期的な影響を及ぼす可能性が高いことから、早期発見と初期対応が重要である。被害を受けた子どもは、不安や混乱、怒り、無力感などから、不安定で強迫的な性的言動を見せたり、被害場面の再演をすることがあるが、こうした性化行動は子どもが再被害を受けるリスクを高めたり、他者への性加害に至ることもある。被害－加害のつながりを断つためにも、早期のケアと教育的介入が必要である。そのためには、子どもの身近にいる保護者や教職員等への心理教育が不可欠である。

2. 研究の目的

本研究では、社会的な問題が高まりながらも十分な支援資源のない子どもの性暴力に関して、2つの目的をもって研究を進めた。

- ① 被害を受けた子どもとその保護者等への心理教育教材を開発する
- ② 性問題行動を有する子どもへの回復支援として、学校内でできる治療教育プログラムについての開発と実践を行う。

3. 研究の方法

上記目的①については、国内外の文献調査や児童相談所職員等とのケース会議をもとにして、子ども向けと保護者・教職員向けの心理教育用教材を開発する。

目的②に関しては、研究協力校における実践と教材開発、ケース検討等を行う。

4. 研究成果

目的①に関して、国内外での文献調査や事例検討をふまえ、下記の資料を作成した。

- ・性被害児童を対象とした心理教材リーフレット『はなしてくれてありがとう』
- ・保護者と教職員を対象とした心理教育リーフレット『子どもを支えるためにできること』
- ・支援者を対象にした心理教育リーフレット『性暴力被害を受けた子どもへの支援 Q & A』
- ・上記のマテリアルのダウンロードと情報公開用の WEB サイト『子どもの性の健康研究会』を開設・運営

目的②に関して、実践の報告を各年度で報告書にまとめて、学校への配布を実施した。

- ・平成 21 年度 知的障がいのある生徒のための性教育研究「問題となる性行動を有する生徒への支援に関する取り組み」報告書
- ・平成 22 年度 知的障がいのある生徒のための性教育研究Ⅱ「問題となる性行動を有する生徒への支援に関する取り組み」報告書
- ・平成 23 年度 知的障がいのある生徒のための性教育研究Ⅲ「問題となる性行動を有する生徒への支援に関する取り組み」報告書

本研究によって、性暴力への被害児童に活用できる心理教育用教材の開発がなされ、また、従来、矯正施設等での実施に限られていた性問題行動の治療教育プログラムを広く学校で活用可能な形に改変できたことで、今後、性被害－性加害の問題について学校での取り組みを一層進めていけると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 野坂祐子・岩切昌宏, PTSD 症例に対する長時間曝露療法 (Prolonged Exposure) と心理社会的支援, 学校危機とメンタルケア, 第 4 巻, 24-34, 2012
- ② 野坂祐子, 性問題行動をもつ生徒に対する支援過程と課題—学内外での支援体制づくりを中心に—, 子ども社会研究, 査読有, 17 号, 95-108, 2011.
- ③ 野坂祐子, 思春期の PTSD, 精神科治療学, 査読無, 26 (6), 763-769, 2011.

- ④ 野坂祐子, 男子の性被害, 季刊 SEXUALITY, 査読無, No. 53, 60-67, 2011.
- ⑤ 野坂祐子, 高校生の性問題行動に対する教員の認識に関する一考察, 学校危機とメンタルケア, 査読無, vol. 3, 76-87, 2011.
- ⑥ 野坂祐子, 現代を生きる高校生のための性教育, 心理臨床の広場, 日本心理臨床学会, Vol. 3, No. 2. 査読無, 24-25, 2011.
- ⑦ 野坂祐子, デートDVの被害・加害への介入支援, 臨床精神医学, 査読無, 39 (3), 281-286, 2010.
- ⑧ 野坂祐子, 子どもの性暴力への理解と支援 加害児・被害児の親へのサポート, 月刊ヒューマンライツ, No. 263, 査読なし, 38-45, 2010.
- ⑨ 野坂祐子, 性暴力被害により PTSD を呈した成人女性への曝露療法 (Prolonged Exposure Therapy), 学校危機とメンタルケア, 査読無, vol. 2, 28-34, 2010.
- ⑩ 井ノ崎敦子・野坂祐子, 大学生における加害行為と攻撃性との関連, 学校危機とメンタルケア, 査読無, vol. 2, 73-85, 2010.

〔学会発表〕 (計 6 件)

- ① 野坂祐子他, 生徒の自殺リスクに関する養護教諭の認知と経験, 日本セーフティプロモーション学会第 5 回学術大会, 2011 年 11 月 19 日.
- ② 野坂祐子, 「語りにおけるポジショナリティと傷つきを語る／聴くための時間一質的心理学における『語り』研究の地平 (2)」, 日本質的心理学会第 8 回大会, 2011 年 11 月 26 日.
- ③ 野坂祐子, 被害者加害者対話が加害者と被害者にとって意味するもの, 第 9 回日本トラウマティックストレス学会, 2010 年 3 月 7 日.
- ④ 岩切昌宏、瀧野揚三、野坂祐子, 日本トラウマティックストレス学会プレコングレス「学校危機時の学校運営と心のケア—中長期支援に向けて—」, 日本トラウマティックストレス学会, 2010 年 3 月 5 日.
- ⑤ 浅野恭子、葛原昌司、藤岡淳子、野坂祐子、奥野美和子、保原智子、中島敦、丸山奈緒, 性問題行動のある子どもたちへの集団療法 (1) —行動の変化をめざして—, 日本心理臨床学会 第 28 回秋季大会, 2009 年 9 月 20 日
- ⑥ 藤岡淳子、野坂祐子、浅野恭子、葛原昌司、奥野美和子、保原智子、中島敦、丸山奈緒, 性問題行動のある子どもたちへの集団療法 (2) —保護者のグループ—, 日本心理臨床学会 第 28 回秋季大会, 2009 年 9 月 21 日

〔図書〕 (計 6 件)

- ① 野坂祐子, 青年期の性的行動と支援, 藤隆・長崎勤編, 日本発達心理学会シリーズ編, 「発達科学ハンドブック 第 6 巻 発達と支援」, 新曜社, 276-286. 2012
- ② 野坂祐子, 学校コミュニティの緊急支援, 日本心理臨床学会編「心理臨床学事典」, 丸善出版, 640-641, 2011.
- ③ 野坂祐子, 子どもへの TF-CBT, 藤森和美・前田正治編「大災害と子どものストレス—子どものこころのケアに向けて」, 誠信書房, 58-60, 2011.
- ④ 野坂祐子, 犯罪被害者とジェンダー, 第二東京弁護士会両性の平等に関する委員会／司法におけるジェンダー問題諮問会議編「事例で学ぶ 司法におけるジェンダーバイアス 改訂版」, 明石書店, 207-219, 2009.
- ⑤ 野坂祐子, 性暴力被害を受けた子どものケア, 藤森和美編「学校安全と子どもの心の危機管理—教師・保護者・スクールカウンセラー・養護教諭・指導主事のために」, 誠信書房, 72-86, 2010.
- ⑥ 野坂祐子, 性の成熟が思春期の子どもに与える影響, 無藤隆ら「よくわかる心理学」, ミネルヴァ書房, 172-173, 2009.

〔その他〕

ホームページ等

「子どもの性の健康研究会」にて、研究成果物の資料等を公開。

<http://csh-lab.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野坂祐子 (NOSAKA SACHIKO)

大阪教育大学・学校危機メンタルサポートセンター・准教授

研究者番号：20379324

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：